

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5 年 2 月 23 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100017		
法人名	(株) ウェルケア		
事業所名	グループホームやすらぎ温品		
所在地	広島市東区温品7丁目13-23 (電話) 082-508-6188		
自己評価作成日	令和5年1月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490100017-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490100017-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年2月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は、ご利用者様の自立支援に職員全員で取り組み、具体的な環境整備を行い成果につなげている。AユニットとBユニットでフロアは分かれているが、職員全員でご利用者様18人をケアするという気持ちで協力・連携しながらご利用者様支援を行っている。また、職員も安心して働くことができるよう、希望休やプチリフレッシュ休暇等を工夫していることで働きやすい環境作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ひとり一人の利用者に全職員が担当する体制を取り入れているため、利用者は様々な職員の特性を反映した質の高いケアを受け、家族ほどの職員にも相談できるメリットがある。利用者がテレビで見た食べ物を食べたいと言えば、すぐ購入し皆で食べるなど常に食を楽しむための配慮がある。勤務年数の長い経験豊富な職員が多くケアのレベルアップに繋げている。働きやすい職場環境に管理者が取り組み、男性の育休者もいる。研修や資格取得、キャリアアップにも事業所は力を入れサービスの向上を目指している。看取りに関しては、事業所独自の分かりやすい意思確認のシートがあり、利用者、家族の終末期の思いの確認を行い医療関係者と職員で方針を共有しチームで協力し支援している。

自己評価	外部評価	項目( Aユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を各ユニットのスタッフルーム内に掲示し、毎朝の朝礼時に全員で復唱している。	理念を念頭に、2か月ごとに目標を全員で考え設定し共有している。目標は、ヒートショックを防止するなど時季にあったものや、利用者が安心安全に生活できる日々のケアの向上につながるものなどである。その目標の数々が利用者の幸福な人生を達成する理念に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方の理解のもと、町内会の掃除や、祭りの飾りつけなど、できる範囲で交流している。また、事業所の回りを散歩した時には率先して地域住民の方に挨拶をしている。	町内会に加入し、回覧板などで情報を共有している。町内の清掃にも参加し地域の一員として交流している。地域の方から利用の相談や事業所見学の要望があり、利用に結び付いたケースもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	体調に問題ない事と、玄関前で検温して頂くことを必須として、見学者を受け入れ説明等を実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナウイルスの為、2カ月に1回資料のみの開催を実施している。また、同封にて2回月に1回作成している広報誌(ご利用者様の日々の様子)もお配りしている。	運営推進会議の議事録には感染症、接遇向上、身体拘束、看取りの研修報告、事故報告など取り組み状況を記載し、家族に送付し周知している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	施設内での事故が起こった際は、事故報告書を作成し、迅速に報告している。	事業所は、市の研修に希望する職員が参加できるよう便宜を図っている。地域包括支援センターとはお互いに情報を共有し協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目( Aユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員間での「身体拘束・虐待防止委員会」の活動は2か月に1回の頻度で開催している。関連している内部研修も実施・参加している。事業所内での勉強会も年に2回開催している。	身体拘束委員会開催前に全員にアンケートを配布し、身体拘束の疑問など意見交換をしている。そのプロセスを会議録に残しケアに役立てている。スピーチロックでは、見守りの応援を頼むなど具体的な事例を共有し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者や在宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	「身体拘束・虐待防止委員会」の活動は2か月に1回の頻度で開催し、関連している内部研修も実施・参加している。事業所内勉強会も年に2回開催している。	/	/
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	全職員を対象にオンライン研修にて参加をして頂いている。	/	/
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、ご契約者様が分かりやすいように説明を行っている。また、説明の要所要所で質問する時間を設けている。	/	/
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会については年に2回開催していたが、コロナ対策にて集まることを中止としている。	コロナ禍の中、玄関先での面会ではあるが、いつでも家族の希望に応じるようにしている。髪を染めることを楽しみにしている利用者の声を聞き、家族に伝え、職員がすぐへケア用品を購入して染めたこともある。	

自己評価	外部評価	項目( Aユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的なミーティングを設け、その場での意見については反映させている。また、必要に応じて職員の個別面談を実施して人事へ報告を行っている。	管理者は相談してもらえ信頼関係を築くよう努めている。意見は同性同士が言いやすいと同性リーダーを通して管理者に伝えるようにしている。利用者を全員でケアする体制がうまく機能していない時があると意見が出たが、すぐ検討し、改善しシフトに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	会社にて定められている「評価シート」を用いて職員の個々に合った目標設定を行ってもらっている。随時、面談を実施し目標達成に向けての助言などをさせて頂いている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修等の参加は職員個々に決めてもらっているが、回覧にて研修案内を行っている。働きながら研修や資格を取得できるように環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同グループ内の事業所と感染症対策研修などを行っている。コロナ過もあり現在はほとんどの研修がオンライン研修になっている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前には事前面談を実施し、ご家族様やご利用者様の困っていることを聞き、その都度相談にのっている。また、入居1カ月の暫定ケアプランを作成し、グループホームでの生活に少しでも早く慣れて頂くようなケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項目( Aユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居の時から何か困っていたりしたらいつでも電話してもらっている。また、月に1回ご家族様へご利用者の写真が入った手紙を送っている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	2週間に1回ある訪問診療にて主治医の先生、訪問看護Ns、薬剤師と協力してその人に合った対応を考えてケアしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	まずは、出勤時の挨拶など当たり前の事を当たり前に行っている。職員間でしっかり言葉使いを注意しあっており、ご利用者様から「いつもありがとね」と貴重なお言葉を頂きしっかりとした距離感・関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族会を1年間に2回開催していたがコロナ過もあり現在は中止している。月に1回ご利用者様の日々の様子などを書いた手紙を送っている。また、電話時は日頃の様子をお伝えするようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ過の中、なかなか面会することはできていないが、ご家族様の希望があれば玄関先にて距離を保ち、面会できるように配慮している。また、遠方の方など温品に来ることが難しいご家族様はオンライン面会にてご利用者の様子を把握することができるように努めている。	家族への電話の取り次ぎや、敷地前の道路を通る地域住民と挨拶やお喋りを交わらせるよう玄関横にベンチやテーブルを設置して関係が途切れないよう支援している。ドライブで花見や馴染みの場所に出かける支援にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目( Aユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居されているご利用者様の中には、1人で過ごすことが好きな方もいるが、職員が介入して日々のレクリエーションであったり家事などのお手伝いを通してご利用者様同士がより良い関係性を築くことができるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご逝去や転居によって退居された方には、GH温品で過ごされた日々のアルバムを作成し、ご家族様に送っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居されるご利用者様やご家族様のご意向に添ったケアに努めている。また、入居される方が過ごしやすい空間作りを職員含め提供できるように努めている。	日頃の会話から、思いを汲み取り、職員間で共有するよう努めている。テレビで見た食べ物を食べたいと聞くと、事業所がすぐ購入しみんなで食べたり、耳が遠く聞こえづらい利用者にはテレビを見るためにすぐヘッドフォンを購入するなど、思いの把握を活かした取り組みをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様やケアマネージャーの話をもとにアセスメントシートや基本情報を作成している。また、ご本人様がどのような生活を望まれているかを伺いながら対応している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者様の日々の状態を必ず生活状況記録に残すようにしている。また、出勤前の職員は必ず生活状況記録を確認・把握してから勤務するようにルールを定めている。		

自己評価	外部評価	項目( Aユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご利用者様別に担当者を振り分け、毎月のモニタリング記入を実施してもらっている。また、ご家族様から頂いた意見はケアプランやモニタリングシートにて反映するようにしている。</p>	<p>リーダーや担当職員、家族の意見を会議で提出し、参加者で話し合い、議事録に集約し、ケアプランに反映している。夜間のトイレ頻度で寝つきが悪い利用者にはホットミルクのアイデアを取り入れたり、脳トレ、筋トレで自立を支援する介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ご利用者様の状態を把握するためにケア記録アプリを活用している。出勤前には職員が必ず目を通して日々の状態を把握するようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>短期入所の受け入れも可能である。空室時にご家族様が短期入所を検討しているようなら受け入れ可能な体制げできている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナの感染者数も考慮して、現在はなるべくの外出はしないようにしているが、近隣のスーパーへ買い物や牛乳パックなどを職員とともに出しに行くようにしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>近隣の医療機関と医療連携体制を組み、必要に応じて通院の実施。また、グループホームやすらぎ温品の主治医が2週間に1回の訪問診療を実施している。定期健康診断も年に1回継続している。</p>	<p>かかりつけ医を希望する場合は職員が同行して受診の支援をしている。かかりつけ医と協力医は連携体制を築きながら適切な医療が受けられるよう支援している。褥瘡や点滴など、24時間対応の訪問看護を受けることができる。</p>	

自己評価	外部評価	項目( Aユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b>  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的に訪問看護を実施している。ご利用者様の特変時などがあれば随時の報告・連絡・相談を行っている。また、看取りの介護を希望されれば最期までケアさせて頂いている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b>  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療法人ということもあり、入院時・退院時の連携はしっかりとれている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b>  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期になったことも想定してあらかじめ入居の際にご家族様の意向を書面にて記載して頂いている。また、看取りになった時はご家族様への説明や職員間でしっかりと連携を取るよう努めている。	利用開始時に終末期を迎える場所、水分が摂取できなくなった場合やエンゼルケアなど、意思確認書で確認をしている。重度化した際、家族の思いの変化に応じて、管理者、医師が説明し、再度意思確認を行い、医療関係者と職員で方針を共有しチームで協力支援している。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b>  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ご利用者様の急変時や事故発生時には、直ちに連携している訪問看護NSと主治医に報告して指示を仰いでいる。全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を実施できていないので、今後の課題として取り組んでいく。		
35	13	<b>○災害対策</b>  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	別法人ながら隣にある「特別養護老人ホーム」は緊急時の連携を確約して下さっている。加えて、運営推進会議において町内会長様より「防災無線」の設置を提案して下さり、消防局を通じた拠点として設置を許可して頂いた。	災害時の誘導図を事務所に掲示、管理者から職員、町内会長への連絡網など災害対策は日ごろから準備、周知している。町内会長からは情報、提案を得て協力体制を築いている。新入社員へは防災委員会のメンバーが研修、周知を図っている。1週間分の備蓄も準備している。	

自己評価	外部評価	項目( Aユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様個々に合った配慮を行っている。申し送り時は、ご利用者様の情報を共有するため事務所内にて実施している。また、身体拘束・虐待防止委員会が2カ月に1回のペースで目標を掲げ、申し送り後に毎朝唱和している。	接遇委員会で人格を尊重する言葉遣いや身だしなみについて話し合いをし、新入職員には身だしなみチェックを行っている。排便の際は大声を出さず、便を「コート」、尿を「ハルーン」とドイツ語で意思疎通して利用者のプライバシーを確保する工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	全職員が思いや希望に沿ったケアを勤めるようにしているが、時として職員本意になる可能性もある。職員全員が個々の意識を高く持ち支援に努めたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々に合ったケアを職員間で行えるように心掛けている。日々の状態を考慮しながら洗濯物干しや洗濯物畳み、机拭きやお盆拭き、ご飯の盛り付け等無理の範囲で実施してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	行事や外出時にはお化粧品や衣類選定、身だしなみなどを職員と共に行うように心掛けている。整容面において不十分な所があるので、職員間で声を掛け合い指摘するようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は配食サービスを利用している。食事準備の時間には、ご利用者様に盛り付けなどを手伝って頂いている。また、ご利用者様によって苦手な食べ物があれば個別に代わりの物を提供するように工夫している。	苦手な食材には代替食を、お酒など嗜好品を希望すればノンアルコールビールを職員と飲むこともあり、好きなものを楽しく食べてもらうよう支援している。おやつも4種類の冷凍のケーキ、饅頭などを取り入れてお茶の時間を過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目( Aユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分摂取量の制限がある方もいらっしゃるが、職員が日々の水分量を把握し、飲水して頂けるようゼリーや違う飲水などに変更し、工夫して提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>ご利用者様一人一人に合った口腔ケアを実施できている。また、訪問歯科とも連携し、分からない事などは随時相談するようにしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>ご利用者様が自然な排泄ができるように支援できている。また、トイレ誘導の時間を決め、気持ちよく排泄することができるようにトイレに誘導している。</p>	<p>時間を決めてトイレ誘導をする以外にも利用者の落ち着かない様子や行動を観察し、自立排泄の支援をしている。自立排泄期間を長く継続するためにスクワットやわざと遠くのトイレへ行き筋力が衰えない工夫をしている。昼間の自立排泄でパットの使用量の軽減に繋げている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便が滞るご利用者様は、主治医・看護師と連携のもと、排便をコントロールできている。排便について何か特変があれば随時医療職に報告と相談をしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>バイタルを考慮しつつ、週2回の入浴を実施している。日により気分がのらない方もいらっしゃるので本人様の意思を尊重している。また、便汚染などされた際も入浴を行い、衛生的かつ気持ちよくお過ごし頂いている。</p>	<p>入浴は無理強いせず好きな時間帯に入ってもらうように支援している。背中や髪を洗うとき以外は浴場の外で見守りをしている。シャワー浴と足浴の場合はタオルを背中にかけてかけ湯をしながら入浴してもらいヒートショックが起きないように取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目( Aユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>ご利用者様の状態をしっかりと把握し、覚醒状態などを考慮し、離床と臥床を行っている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の重要性は全職員がしっかりと把握している。薬の変更などがかった際には、申し送りと記録に残し必ず理解するようにしている。また、服薬ミスを防ぐために薬のセット時は職員で二重確認を行って事故防止につなげている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>ご利用者様の趣味を把握し、日々のアクティビティに取り入れるものは取り入れて、個々の主体性を活かしていけるように支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ過のこともあり、外出の頻度は極めて低いが、気分転換の近所の散歩などはマスクを着用してもらい実施している。また、ご家族様のご要望があれば可能な限り答えている。</p>	<p>玄関横にベンチ、テーブルを置き、外気浴を楽しめる支援をしている。玄関前は地域の人の通り道になっているため、多くの人と挨拶を交わし交流している。お墓参りの要望があれば家族に連絡し、一緒に行けるよう支援をしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>基本的にグループホームでは個人の金銭管理は行っていない。ご本人様が望むものやご家族様が購入して頂いたもの、日常的に必要な物に関してはご家族様に連絡をして立替購入にて対応させてもらっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( Aユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご家族様からの電話やご利用者が電話して欲しいと訴えがあった時にはおつなぎしている。また、コロナ過の為、オンラインのテレビ電話も随時対応している。毎月ご家族様へ写真と手紙を送らせてもらっている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>随時換気を行い、朝はカーテンを開け、夜はカーテンを閉めている。玄関やリビングにはご利用者が作られた工作物や絵を飾っている。</p>	<p>日当たりのよい明るい空間にソファが置かれ、テレビやカラオケがあり、時には音楽が流れ、空調など環境整備にも配慮し居心地良く過ごせる場になるよう工夫をしている。異食の利用者もいるため、ものを置かないシンプルな空間になるよう配慮している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>基本的に食事の時は席は固定させてもらっている。朝のコーヒーやおやつ時間などは、居室にて休まれているご利用者がいることからご利用者様のお好きな席に座って頂いている。リビングにはソファを各階2つ配置しており身心ともに休むことができる空間になっている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居の際になるべくご利用者が使い馴染んだ物を持ってきていただくように配慮している。また、プライバシーの確保もできるように部屋は鍵をかけることができ、居室の入室の時には声掛けやノックするように努めている。</p>	<p>写真やカレンダー、絵を飾り、時計、冷蔵庫などを置き、わが家と同様、居心地よく過ごせるよう配慮している。入口の表札には、以前の職業、お好み焼き屋、運転手、自衛官などのイラストの下に名前を書いて一目で自分の部屋が分かる工夫をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>運動のための手すりを各階に設置したり、車椅子の方が残存能力を活用してトイレに行けるよう環境整備をしたり、個々に合わせた椅子を作成したりして自立生活の支援をしている。トイレの表示を大きくしたり、お部屋の場所を分かりやすく表示して工夫している。</p>		

V アウトカム項目( Aユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目( Bユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を各ユニットのスタッフルーム内に掲示し、毎朝の朝礼時に全員で復唱している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	地域の方の理解のもと、町内会の掃除や、祭りの飾りつけなど、できる範囲で交流している。また、事業所の回りを散歩した時には率先して地域住民の方に挨拶をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナウイルスのこともあるので、体調に留意しながら、見学者等に説明などを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在、コロナウイルスのため2カ月に1階資料のみを配布している。また、同様に2カ月に1回広報誌も作成しているので、ご家族様にお配りしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	施設内にて事故やコロナウイルス陽性者が出たときは、報告書を作成し、担当者に報告している。		

自己評価	外部評価	項目( Bユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員間での「身体拘束・虐待防止委員会」の活動は2カ月に1回の頻度で開催している。関連している内部研修も実施・参加している。事業所内での勉強会も年に2回開催している。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	「身体拘束・虐待防止委員会」の活動は2カ月に1回の頻度で開催し、関連している内部研修も実施・参加している。事業所内勉強会も年に2回開催している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	全職員を対象にオンライン研修にて参加をして頂いている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、ご家族様が分かりやすいように説明を行っている。分からないことがあればその都度質問してもらうようにして、後日でも質問等にこたえるようにしている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会については年に2回開催していたが、コロナ対策にて集める事を中止している。		

自己評価	外部評価	項目( Bユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に2～3回は必ず職員と面談を行う機会を設けている。また、必要に応じて個別面談を行い、人事部に報告し早急に問題点などは対応できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	1年を通して職員個々に「評価シート」を用いて就業における目標などを定めてもらっている。個々の目標に対しての個別面談を設け、達成までのアドバイス等を助言させてもらっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員全員が把握できるように回覧板に研修案内を掲示している。また、働きながら資格取得ができるようにシフト作成時など職員の希望休になるべく添えるようなシフト作りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同グループ内の事業所と感染症対策研修などを行っている。コロナ過もあり現在はほとんどの研修がオンライン研修になっている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に事前面談を行うようにする。事前面談にて、ご利用者様やご家族様が抱えている不安な気持ちなどをその都度相談に乗らせてもらうようにしている。1カ月の暫定ケアプランを用いて少しでも安心して生活することができるようなケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項目( Bユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居の時から何か困っていたりしたらいつでも電話してもらっている。また、月に1回ご家族様へご利用者様の写真が入った手紙を送っている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	2週間に1回ある訪問診療にて主治医の先生、訪問看護Ns、薬剤師と協力してその人に合った対応を考えてケアしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	まず、出勤した職員はご利用者様に挨拶などをするようにしている。また、職員間にて誤った言葉使いは注意し合ってより良い関係性と距離感を保つことができる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	月に1回必ずご家族様へご利用者様の日々の様子を書いた手紙と写真を同封して送らせてもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナウイルスの事も考えて、施設内での面会は禁止している。ZOOM面会や玄関先での距離を保った面会は行っても良いようにしている。		

自己評価	外部評価	項目( Bユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活の中で、1人の時間が欲しいご利用者様もいるが、ご利用者様たちがフロアに集まる時間には職員が加入し、ご利用者様同士がより良い関係性を築けるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご逝去や転居によって退居された方には、GH温品で過ごされた日々のアルバムを作成し、ご家族様に送っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居されるご利用者様やご家族様のご意向に添ったケアに努めている。また、入居される方が過ごしやすい空間作りを職員含め提供できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様や職員、ケアマネージャーの話をもとにアセスメントシートや基本情報を作成している。当人もどのような生活を望まれているか聞き、職員間で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者様の日々の状態をアイパットのケア記録にて残すようにしている。記録に残したデータを出勤の職員は必ず把握してから業務にあたるようにしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目( Bユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご利用者様ごとに居室担当者を振り分けて、毎月のモニタリング用紙を記載してもらい提出してもらっている。ご家族様から頂いた意見などはケアプランやモニタリング用紙に反映できるようにしている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケア記録アプリを活用しながら、分からない点や説明しにくい事は毎日の申し送りにて情報共有ができるように努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>短期入所の受け入れも可能である。空室時にご家族様が短期入所を検討しているようなら受け入れ可能な体制げできている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナの感染者数も考慮して、現在はなるべくの外出はしないようにしているが、近隣のスーパーへ買い物や牛乳パックなどを職員とともに出しにいくようにしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>近隣の医療機関と適切な関係性を保っている。必要に応じて通院や往診に来て頂いている。また、GH温品の主治医が2週間に1回訪問診療を実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目( Bユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b>  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的に訪問看護師がGH温品に来所される。ご利用者様の特変時などには訪問看護師に速やかに報告し、指示を仰ぐようにしている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b>  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療法人ということもあり、入院時・退院時の連携はしっかりとれている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b>  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期になったことも想定してあらかじめ入居の際にご家族様の意向を書面にて記載して頂いている。また、看取りになった時はご家族様への説明や職員間でしっかりと連携を取るよう努めている。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b>  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ご利用者様の急変時や事故発生時には、直ちに連携している訪問看護NSと主治医に報告して指示を仰いでいる。全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を実施できていないので、今後の課題として取り組んでいく。		
35	13	<b>○災害対策</b>  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	別法人ながら隣にある「特別養護老人ホーム」は緊急時の連携を確約して下さっている。加えて、運営推進会議において町内会長様より「防災無線」の設置を提案して下さり、消防局を通じた拠点として設置を許可して頂いた。		

自己評価	外部評価	項目( Bユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者様個々にあった配慮を行っている。申し送り時には、入居している方の個人情報の共有の為、事務所を締め切った状態で申し送りを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者様の思いや希望に添ったケアを行うように努めているが、時と場合により職員本意になる可能性もある。職員全員がモチベーションを高く持ちケアに努めていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者様のペースを大事にしている。役割作りなどが明確になっている方にはお盆拭きやテーブル拭きなど手伝ってもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	行事や外出時にはなるべく本人が望む衣類を着てもらったり化粧をしてもらったりできるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	配食サービスにて食事を提供している。盛り付けの時などにはご利用者様に手伝ってもらったり、食事で苦手な食べ物があるようならご家族様了承のもと立替購入にて代わりの物をご購入させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目( Bユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一 日を通じて確保できるよう，一人ひと りの状態や力，習慣に応じた支援をし ている。</p>	<p>食事量や水分量を記録をもとに職員間で 把握するようにしている。水分摂取など はご本人様の状態を考慮して、嚥下機能 が低下している人にはゼリーを作り、水 分を補ってもらっている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう， 毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>訪問歯科とも連携を行い、その人に合っ た口腔ケアができるように努めている。 また、口腔時においての不明な点は訪問 歯科に質問をして対応してもらうように している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし， 一人ひとりの力や排泄のパターン，習 慣を活かして，トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>ご利用者様ごとのだいたいの排泄時間を 把握し、トイレ誘導を行っている。自然 な排泄を実施してもらうためにも排泄時 は、職員はトイレの外から見守りを行う ようにしている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲 食物の工夫や運動への働きかけ等， 個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘傾向のご利用者様は、排便失神など のリスクも考え、訪問看護師と主治医に 必ず相談するようにしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように，職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に，個々に応じた入浴の支援をしてい る。</p>	<p>週に2回入浴することができるように努 めているが、ご本人様の希望になるべく 添っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( Bユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者様の日々の状態やライフスタイルを理解した上で、臥床と離床を行っている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の重要性は全職員がしっかりと把握している。薬の変更などがなかった際には、申し送りと記録に残し必ず理解するようにしている。また、服薬ミスを防ぐために薬のセット時は職員で二重確認を行って事故防止につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者様の趣味を把握し、日々のアクティビティに取り入れるものは取り入れて、個々の主体性を活かしていけるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナウイルスの関係もあり、外出の頻度は少ない。気分転換にて、GH温品の周りを散歩している。その時は必ずマスク着用を努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭においては、紛失の事も考えてGH温品では預からないようにしている。ご利用者様が望むものは、ご家族に了承を得てから立替購入にて対応させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目( Bユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご利用者様の中で、電話の受け答えができる方に関して、望まれるようならご家族様と電話をつないでいる。また、ZOOMにてオンライン面会など実施できるように配慮している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	湿度・室温管理には十分配慮している。毎月の行事にてご利用者様と一緒に作成した工作物などがあれば掲示するようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	基本的に食事の時は席は固定させてもらっている。朝のコーヒーやおやつ時間などは、居室にて休まれているご利用者様がいることからご利用者様のお好きな席に座って頂いている。リビングにはソファを各階2つ配置しており身心ともに休むことができる空間になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際になるべくご利用者様が使い馴染んだ物を持ってきていただくように配慮している。また、プライバシーの確保もできるように部屋は鍵をかけることができ、居室の入室の時には声掛けやノックするように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	運動のための手すりを各階に設置したり、車椅子の方が残存能力を活用してトイレに行けるよう環境整備をしたり、個々に合わせた椅子を作成したりして自立生活の支援をしている。トイレの表示を大きくしたり、お部屋の場所を分かりやすく表示して工夫している。		

V アウトカム項目( Bユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームやすらぎ温品

作成日 令和5年3月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナウイルス感染防止の為、運営推進会議の議事録を書面に提出させてもらっているが、詳しい詳細やご家族様のご要望を受け入れる体制作りができていない。	運営推進会議の議事録にご家族様の声を反映し、読み手がわかりやすい議事録にする。	運営推進会議の議事録とは別にご家族様のご要望が記載できる用紙を作成・配布する。	1年間
2	11	職員が働きやすいような職場作りの構築をより一層強化する。	職員一人一人が定年まで安心して働くことができるような職場になること。	リーダーとも協力を行い個々に合った問題解決。リフレッシュ休暇の再開。	1年間
3	26	ご利用者様一人一人に居室担当を設けているが、ご家族様は居室担当の職員を把握できていない。	ご家族様が来所時に居室担当職員に日々の状態を詳しく聞くことができる体制作りの構築。	玄関前にて居室担当が分かるものを掲示する。関係作りの一環として立替えにて購入させてもらうときの電話は居室担当に行ってもらおう。	1年間
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。